Ⅰ．活動成果及び今後の課題　　（注）各項目の記述には必要な分量のスペースを使ってください。

（1）活動成果

仙台，東京での両公演で間宮芳生，山根明季子，清水一徹，稲森安太己 各氏の作品を演奏し，仙台公演のみ佐藤洋一，田口和行，吹間慶祥 各氏の新作，そして東京公演では湯浅譲二，権代敦彦，藪田翔一 各氏の作品を演奏した．全曲が間宮芳生のために作曲された作品である。

仙台公演では79名（内招待10名）のお客様にお越しいただき，作曲家佐藤洋一氏をナビゲーターに迎え，作品の魅力を間宮と共にトークセッションしながら演奏会を進行した．作曲家による独自の視点からの解説を加えながらの演奏会は終始和やかな雰囲気で進行した．

東京公演では77名（内招待23名）のお客様にお越し頂き，作曲家 間宮芳生先生，清水一徹氏，藪田翔一氏出席の中で開催した．当日は間宮芳生の最新アルバムとなる「五線紙上の恋人」（間宮作品を収録），音楽之友社より新刊楽譜として間宮作品の楽譜が出版され，物販も賑わいをみせた．当公演は文化庁芸術祭への参加もなされており，多数の審査員も来場した。

演奏会は新作の魅力が存分に表出されただけでなく，長い間療養されていた間宮先生の復活でも飾る一夜となった。

（2）今後の課題

両公演ともに，多数のメディアへの紹介があったものの，100名を超える来場者を達成できなかったことに関して，大きな課題と受け止めている。

この点に関しては，ひたすら演奏活動を継続し，打楽器音楽の魅力を伝えるべく，一歩一歩積み重ねていく外に道はないと自覚している

今後は再演作品だけでなく，打楽器協奏曲の可能性を開拓する計画である。すでに来年もいくつかの演奏の日程が内定しており，アンサンブルの側面から打楽器音楽の可能性を提言していきたいと考えている．

同時に，今回初演した作品の再演を積極的に重ねることで，作品の理解を一層深めることを望みたい

Ⅱ．支出報告　（使途、数量等を具体的に摘要欄に記入して下さい）

費　　用	金　　額	摘　　要
（1）会場費	万円	
（2）印刷製本費		
（3）旅費交通費		
（4）謝　金	30　万円	手帳料
（5）その他		
合　　計	30　万円	

※上記に記載された支出の事実が分かる領収証のコピーを添付してください。

會田瑞樹 ヴィブラフォンソロリサイタル2017
～はじまりの場所で～

10月26日(木)
18:30開場 19:00開演
東京 杉並公会堂小ホール

山根 明季子 (b.1982) 作曲――ポップでカラフルな、虫
《glittering pattern #2》(2017/委嘱新作、世界初演)

稲森 安太己 (b.1978) 作曲――鋭利な都会的現実主義
《Blumenstrauß ～花束～》(2017/委嘱新作、世界初演)

清水 一徹 (b.1976) 作曲――現代の暗部を越って
《Camera obscura》(2017/委嘱新作、世界初演)

湯浅 譲二 (b.1929) 作曲――理知から紡ぐ神秘のコスモロジー
《ヴァイブ・ローカス》(會田瑞樹2015年委嘱作品)

荻田 翔一 (b.1983) 作曲――いつか見た万華鏡
《Billow II》(2015年會田瑞樹委嘱作品)

権代 敦彦 (b.1965) 作曲――音への執着と、祈り
《光のヴァイブレーション》(會田瑞樹2016年委嘱作品)

間宮 芳生 (b.1929) 作曲――楽器の「声」の幽玄
《Music for Vibraphone and Marimba》(2016/委嘱新作、世界初演)
1. Vivace
2. Armonia
3. Umoresca
4. Capricio (for Vibraphone and Marimba)
5. Finale =Canzonetta=

全席自由
一般 2,000円
学生 1,000円
当日 500円増

チケットぴあ
☎0570-02-9999
Pコード321-273

e+ イープラス
[PC／携帯] http://eplus.jp
[直接購入] ファミリーマート

お問い合わせ
mizu.vibraphone@gmail.com
080-6008-1297(事務局)

助成
公益財団法人朝日新聞文化財団
公益財団法人光山文化財団
NOMURA 野村財団
平成29年度文化庁芸術祭参加公演

「杉並公会堂、はじまりの場所で」會田瑞樹

2012年、杉並公会堂で初めてのリサイタルを開催した。それからもう5年の月日が流れ、様々な事が変化し、世相も大きく変わった。いろいろな人を見送り、そして多くの人と出会った。いろいろな場所を旅し、これからも続いていく。音楽は、今いる存在しているその地点から、まったくの未知へと移り変わっていく時間を旅するかのようだ。そんな冒険をお客様と一緒に楽しみたい。

米寿を迎える間宮芳生先生が僕のような若輩者に作品を書いてくださった事に、ただただ感謝の思いしかない。楽器の持つ芯からの「声」に耳を傾けた間宮先生の幽玄の境地を表現したい。強烈な個性を持つ山根明季子さんのヴィブラフォンで象る幾何学文様の世界。ドイツで教鞭をとられる稲森安太己さんの作品には都会的なセンスと古典への敬愛を感じる。楽器の持つ暗部に徹底して自己を投影する清水一徹さんの世界は現代人の持つ不安感を浮き彫りにする。

再演作品は、同じく傘寿を迎える湯浅譲二先生の2015年委嘱作品。神秘的な和音に導かれてヴィブラフォンの音の軌跡が描かれる。萩田翔一さんの疾走する音世界の中から、強烈な原色の色彩を感じる事が出来るだろう。権代敦彦さんの17分に渡る大作はヴィブラフォンの持つ叫びを「音」で存分に堪能出来ると思う。

僕にとって作品、楽器とは仲間のような存在だ。「全委嘱作品による演奏会」を実現できることは、同じ釜の飯を食う同志との壮大な旅のように思える。僕はその出発待ち遠しく、遠足前の小学生よろしく枕元に楽器と楽譜を置いて、僕の原点である杉並公会堂でのリサイタルを心待ちにしている。

Mizuki Aita, percussion

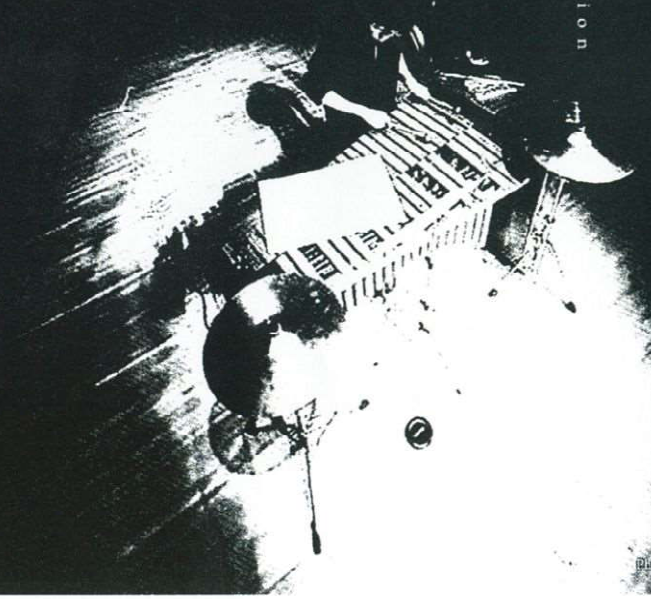
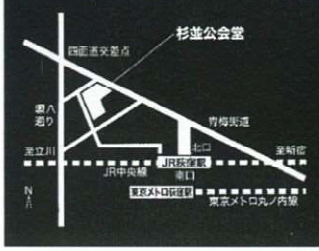


Photo by Shoichi Yabuta



會田瑞樹 (あいたみずき)

打楽器奏者。1988年宮城県仙台市生まれ。幼少よりヴァイオリンを照井勢子氏に師事。その後12歳より打楽器を始め、佐々木祥氏、星律子氏に師事。その後、有賀誠門、藤本隆文両氏に師事し、武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーゾ学科打楽器専攻卒業、同大学院修士課程修了。吉原すみれ、神谷百子の両氏に師事。大学3年時に日本現代音楽協会主催第9回現代音楽演奏コンクール"競楽IX"において第2位入賞。2011年に打楽器奏者・高橋美智子氏より長年女史が使い続けてきたDeagan社ヴィブラフォンを譲り受け、それをきっかけにヴィブラフォンの魅力の更なる開拓を求めて2012年に初となるヴィブラフォンソロリサイタルを開催し、ヴィブラフォンのための新しいレパートリー研究を継続して行っている。2014年NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」へ出演。デビューアルバム『with....』をALMコジマ録音よりリリース。アルバムは、朝日新聞夕刊推薦盤、音楽の友12月号推薦盤として掲載。「想いの一途さが如何なく発揮され、内なる歌にあふれたアルバム」(諸石幸生氏)、「個性的な7人の邦人作品を並べ、それぞれの持ち味をフルに生かした演奏。これは日本人だからこそ生み出せた音の世界。」(金澤正剛氏)等の絶賛を受ける。2014年11月には多岐にわたる音楽活動を背景に第四回世田谷区芸術アワード"飛翔"音楽部門を受賞。2015年12月東京文化会館小ホールで開催したリサイタルにおいて會田のために作曲された作品は100作品を超えた。2016年12月にはNHK-BSプレミアム「クラシック倶楽部」において會田の演奏を1時間に渡って取り上げた「打楽器百花繚乱 Percussion Extraordinaire -Mizuki Aita-」が全国に渡って放送され、各所より反響を得た。2017年6月にはALMコジマ録音より全曲自身の委嘱作品のヴィブラフォン独奏によるアルバムリリースを予定。打楽器音楽の新たな可能性を模索しつづけている。